

前潟村
谷本宇平 谷本松治郎 安原秀泰
青葉勘太郎 原 林造 栗坂哲造
佐藤和二郎 佐藤祐治郎 佐藤榮七
花町
原 岩三郎 船越三代造

相撲図

宝暦六年（1756）大阪鐵橋筋桑名町 近江屋理助筆。
近江屋理助については不明であるが、大阪在住の商人だったようである。余技に画を習っていたのであろうか、自作の絵馬を奉納している。色黒の力士が、色白の力士を豪快につり上げる状を描いた、躍動感のあるなかなか巧みな図であり、相撲好きの人物であったことも窺わせる。

この絵馬は、平成十七年岡山国体に際し、和気町歴史民俗資料館で開催された特別展示「すもうのルート」に貸し出し展示された。



孝明天皇石清水八幡宮行幸図【御神寶】
慶応二年（1866）九月浅部●成奉納。
絵馬板に「文久三年四月十一日石清水八幡宮江御行幸之図 應需芳山香兵」と記されている。縁書 浪花福知軒 額師 浪花正兵衛



孝明天皇は一二一代の天皇で、在位は弘化三年（1846）二月十三日〜慶応二年（1866）十二月二十五日であった。
天皇は、学問を好み父・仁孝天皇の遺志を継いで公家の学問所である学習院を創立した。
嘉永六年（1853）のペリー来航以来、幕府政治に発言力を持ち、江戸幕府大老井伊直弼が諸外国と独断で条約を結んだことに対し、不信を示し、公武合体運動を推進し、あくまで鎖国を望んだ。
徳川家茂が上洛してきたときは、攘夷祈願のために賀茂神社や石清水八幡宮に行幸している。

当社の絵馬は孝明天皇の記録に残る、石清水八幡宮に行幸した時の様子を絵馬に描いたものであり、鳳輦に乗られた天皇を中心とする行幸列が繊細に描かれている。

行幸とは、天皇が外出されることである。目的地が複数ある場合は特に巡幸という。また、御幸と言う場合もある。

皇后・皇太后・皇太子・皇太子妃のご外出を、行啓と称し、行幸と併せて行幸啓という。

単に「行幸啓」といった場合は、天皇と皇后がご一緒に外出することを指す場合が多い。

行幸啓した天皇と皇后が外出先からお帰りになられることを還幸、還啓、還幸啓という。

これら以外の皇族の外出はお成り、お成りをした皇族が外出先からお帰りになられることをご帰還という。

文化財

当社の奉納品の内三点が、早島町指定重要文化財に指定されている。

上野寛永寺絵馬（絵画）

正徳六年（1716）三月、早島戸川家第四代戸川肥後守安晴が願主として奉納したもので、狩野喜信の銘がある。



江戸上野寛永寺の境内を描いたもので、散策する武士や従者を伴った女御、仁王門前を通る駕籠の行列などが描かれている。
絵師の喜信は享保年間（1716〜1736）に活躍した狩野為信の子で、初め松林と号した後休圓と改めた。
（昭和四十四年一月二十日指定）

東参道常夜灯一对（石造美術）

安政三年（1856）九月、江戸・大阪・早島の畳表問屋が海上輸送の安全を祈願して奉納した。

南側の灯籠に早島の間屋八軒、北側の灯籠に江戸と大坂の間屋十一軒が名を連ねている。

尾道石工 常助の作で松尾屋宗吉が敷地を寄進している。
早島

中屋茂吉郎・東屋和七郎・吉屋萬之助・大文字屋孫八郎・若葉屋吉太郎・笹屋仙吉・米屋元八・栗屋勘七

江戸・大阪

乾善太郎・荅澤六兵衛・大扶屋傳衛・松田嘉市・近江屋作兵衛・清水市郎兵衛・大和屋直兵衛・近江屋又右衛門・清水九兵衛・荅澤小四郎・東屋和二郎

（昭和六十年四月十八日指定）



早島十景扁額（有形民俗文化財）

明治二十三年太田利平太氏が奉納した。

表題に「早島十景」とあり、小型の色紙に黄葉山（的場秋石）が描いた早島十景の着色されたスケッチと太田利平太の短歌が十組ずつ貼られている。

（平成六年十一月十五日指定）